

作文を書くころ

2 「鉛筆対談」

えんぴつたいだん
二人でお話

ニュージャーシー補修授業校 (2012年5月5日)

作文は、コツが分かれば誰にでも書くことができます。

一つの場面だけを切り取って、おしゃべりをしたことを順番に書くのです。作文に会話を入れると、場面が生き生きとってきます。お家で保護者と鉛筆でお話をしてみましょう。そうすれば作文の実力がつきます。そして、作文を書くときに、「五回ほど」「」を書くのです。わかりやすくなります。

本校でも、既実践している学級があります。すばらしいことです。

【用意するもの】 鉛筆二本（一人一本）。原稿用紙数枚。なければ、白色の紙でも大丈夫です。

【約束】 ①お話の内容を決めておく。②けっしておしゃべりをしない。③必ず相手の話をつなげる。④相手は、行を替えて、いちばん上から書く。⑤さあ、書いてみましょう。(日本作文の会から学びました。)

作文を書くコツ

②「楽しかった」「おもしろかった」と書くのは×です。

◎は、相手と、しゃべったことを思い出して書くのです。「」を書く場面が生き生きして、読む人にとってもわかりやすい作文になります。

【例】

とびはこのれんじゅう

小一 なおと○と じゅんこ●

○ なおと 「きのう とびぼこ おもしろかったね。」

● じゅんこ 「そうかなあ。わたしは あまり おもしろくなかったわよ。」

○ なおと 「ああ、わかった。じゅんこちゃんは へただからでしょう。」

● じゅんこ 「なによ。なおとくんだって とびこの はじめに おしりを ぶっつけて いたたた なんて いったでしよう。」

○ なおと 「あつ そうか、でも あれは つい しつぱいでした。」

● じゅんこ 「いっかい だったかなあ。」

○ なおと 「なに いったんの いっかいさ。それより じゅんこちゃんは とびこの まえで とまって ばかり いたね。」

● じゅんこ 「あれは かんがえて いたんです。」

○ なおと 「へんだなあ。とびぼこって かんがえて とぶんですか。」

● じゅんこ 「ええ かんがえて とぶんです。」

○ なおと 「ぼくはね、はしる まえに かんがえますよ。」

● じゅんこ 「わたしは ちゃんと かんがえて とぶんです。」

○ なおと 「かんがえて とべないんだらう。」

● じゅんこ 「なおとくん きらい。」

○ なおと 「そう おこるな。じゅんこちゃん おしまいは とべたじゃないか。」

● じゅんこ 「ええ 先生が 書いて くれた 手を つく ところに ちゃんと ついたら とべたのよ。」

○ なおと 「ぼくも そうだよ。」

● じゅんこ 「ゆうちゃん みたいに ふみきりで バーンと はねれば いいのね。」

○ なおと 「ぼくなんか とびこの はじめに おしりで バーン だよ。」

● じゅんこ 「ほら ごらんなさい。わたしだけじゃ ないでしょう。」

(終)